

学校名	伊達市立保原小学校	校長名	佐藤喜夫
住所	伊達市保原町字弥生町15	児童生徒数	732名
TEL	024-575-3281	ホームページアドレス	http://www3.schoolweb.ne.jp
学級数	29		

『学び合い』を基盤とした少人数指導の工夫

1 少人数指導の方針

- (1) 各学年で学年『学び合い』を実施し、学年T・T指導を中心に行う。
- (2) 高学年の算数科においては、指導計画の中に基礎的基本的な内容の確実な定着を図っていくための時間を位置付けるとともに、補充的な学習や発展的な学習を通して、上位児や下位児に配慮した指導を行う。

2 実践の概要

(1) 学年『学び合い』

各学年で算数科を中心として、週1時間程度、学年『学び合い』の時間を位置付けた。

- 児童同士が分からないところを聞き合ったり、教え合ったりすることで自然と少人数集団が形成され、その中で分かりやすく説明したり、考えを出し合ったりすることで課題を解決したり、自分の考えが広がったり深まったりする。
- 運動帽子を白にしてかぶり学習を始めるが、課題が達成した児童は帽子の色を変えて可視化する。帽子の色を見て、まだ課題ができない児童はできた児童に聞きに行ったり、できた児童は進んで教えに行ったりする。そのかわり合いの中で、「できた喜び」や「分かってもらえた喜び」を味わうことで、学習への意欲や自信へとつながっている。
- 学年や異学年で『学び合い』を行うことにより、複数の教師で集団を見取ることができ、個別対応や教師間の情報交換も行うことができる。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の指導計画への位置付け

＜第5学年 算数科年間指導計画＞

1	★ 考える力をのぼそう	1	14	○ 百分率の意味とその表し方 ○ 百分率を適用した計算方法
	★ 定着確認シート①	1		
	★ かたちであそぼう	1		○ 正多角形の概念、性質、かき方 ○ 円周率の意味 ○ 円の直径の長さと同周の長さ
2	14 正多角形と円周の長	10	18	
	☆ おぼえているかな			○ 分数に整数をかけることの意味 ○ 分数を整数でわることの意味
	学力テスト	1		
	15 分数のかけ算とわり	5		
	★ 定着確認シート①	1		
	15 分数のかけ算とわり	2		○ 角柱、円柱の概念、特徴、性質
	16 角柱と円柱	5		
3	★ 算数の目で見よう	2	13	
	★ 5年のふくしゅう	2		
	★ 算数おもしろ旅行	2		

＜第6学年 算数科年間指導計画＞

13	資料の調べ方	2	◎ 代表値としての平均について話し合う。 ◎ 資料を度数分布表に整理する方法について話し合う。 ◎ 資料の読み取りのしかたについて話し合う。
	☆ おぼえているかな?	8	
14	量の単位のしくみ	2	◎ 表、式を用いて数量の規則性を見つける方法について話し合う。 ◎ いろいろな単位とメートル法について話し合う。
	★ 定着確認シート⑤	①	
	★ 定着確認シート⑥	①	
	★ 算数の目で見よう	2	◎ 新幹線に関する資料の読み取り方法について話し合う。 ◎ 6年間の学習内容の復習で分からないところについて話し合う。
	★ 算数のまとめ	9	
	★ 算数卒業旅行	12	◎ 和算等のやり方を話し合い、算数に対する興味を広める。

- 定着確認シート（年6回）を実施する時間を位置付けた。（4学年以上）

- 学年の学習内容の復習と定着を図るための時間を、学年末に位置付けた。

3 授業の実際

(1) 学年『学び合い』 第4学年 算数科「わり算のしかたを考えよう」 18時間

◇ 4学年の児童の実態の応じた学年『学び合い』の実践

- 単元の到達目標を見据え、単元全体を見通した指導・評価計画の作成とシラバスを作成する。
- 観点ごとの評価規準を踏まえ、目的をもって児童の学びを見取り、基礎的な内容理解の確認を行ったり、次時の課題に生かしたりする。



《学年『学び合い』》



《個別の教え合い》

- 週1～2時間（月曜日1時間目、金曜日5時間目）の学年『学び合い』の実施している。
- 児童は課題達成に向けて意欲的に取り組み、学級の枠を越えて、交流する姿が見られる。

- 課題が終わった児童は、帽子の色を変えることで可視化を図る。
- 教室の至るところで、児童同士の交流が始まり、分かるまで聞いたり、納得するまで教えたりする姿が見られる。

(2) 補充指導や発展的な学習 第6学年 算数科「算数のまとめ」 10時間

＜学年の計画＞

算数 習熟度別型『学び合い』

◎既習内容の定着を図るため、ドリル学習や全国学力学習状況調査の過去問に取り組む。

○児童が自ら選択して学習する環境として、3つのコースを設定する。

・ハイレベルコース 【語り2分→40分→語り3分】

ハイレベル問題にチャレンジする（全国学力テスト抜粋） → 友だちと考えをぶつけあって解決するおも
全国学力学習状況調査の過去問題 しろさが味わえる！

・ジャンプコース 【語り2分→（自力3分→交流5分→全体2分）×4→語り3分】

テスト問題（ ）点をめざす（定着確認シート抜粋） → 1問ずつみんなで解決し、「なっとく」
全国学力学習状況調査の過去問題 できる！

・じっくりコース 【語り2分→（自力3分→交流5分→全体2分）×4→語り3分】

テスト問題（ ）点をめざす（学年末テスト抜粋） → 基本の問題をときながら、わからない
全国学力学習状況調査の過去問題 ところがわかるようになる！

※ジャンプコース、じっくりコースは、スモールステップで問題を解けたという実感を味わわせていく。

【（ ）内の進め方や時間は問題に応じて流動的でよい】

- 単元は3月実施予定の「算数のまとめ」を4月の最初の単元に移動し、これまでの算数の復習と全国学力学習状況調査に向けた対策に充てるよう、計画を変更して実施した。
- 学習を始めるにあたり、定着確認シートや全国学力学習状況調査・県学力調査、NRT学力検査等の結果から、つまずきやすい箇所の実態分析を行った。全国学力学習状況調査については、全職員で採点を行い、その後学年ごとに話し合いをもった。国語科においては、「文型」と「読み取り」、算数科においては、「図形」に課題があることが分かり、各学年において系統性を考慮した対策を練った。

- 全国学力学習状況調査の対策においては、事前に、6学年担任、校長、教頭、教務、担任外教師で過去の問題等からつまずきやすい箇所などの分析を行った。

- ハイレベルコースには学年担任が1名つき、基本的に児童同士の『学び合い』によって学習を進め、必要に応じて教師が解説を行った。ほとんどの児童が、自力や児童同士の『学び合い』によって解決することができた。



《学び合うハイレベルコースの児童》

- ジャンプコースには学年担任が1名つき、児童は自分が解決したい問題ごとにグループになり、『学び合い』によって学習を進めた。教師は、各グループを回りながらポイントを解説した。理解した児童は、まだ理解できていない児童に教えたり、次の問題に取り組んだりして理解を広げていった。

- じっくりコースには、学年担任1名の他、校長、教頭、担任外教師、計6名が入り、教師1名が児童2～3名を担当しながら個別指導を行った。

つまずきやすい問題を6名の教師が1問ずつ分担して受けもち、児童は教えてほしい問題を受けもつ教師のところへ行き、指導を受けるようにした。理解した児童は、まだ理解できていない児童に教えることで、理解が確かなものになるようにした。1時間に1問程度ではあったが正答にたどり着き、達成感を味わわせることができた。

4 実践の成果と課題

- 学年『学び合い』では、児童同士が、「みんなでみんなができるようにしよう。」という意識をもち、進んでかかわる中で、学習内容の理解が高まってきた。また、望ましい学習集団が形成されたことで、受容的な雰囲気醸成され、不登校児童がいない。
- 6学年の実践では、自己申告でコースを選択させたことにより、主体性が生まれ、真剣に学習に取り組むことができた。少人数で聞き合い、教え合いながら課題を解決することができた。
- 学年だけでなく、校長、教頭をはじめ、担任外の教師もかかわることで、児童の実態に応じて、計画的な実践を行うことができた。
- 今年度は全国学力学習状況調査と県学力調査に向けて、習熟度別学習を計画しているが、他の学年においても、担任外教師の協力を得ながら効果的な学習の在り方を工夫していきたい。